



題 字  
初代会長 松野盛吉  
定 価 1部 5円  
(購読料は年会費に含む)

発行人  
〒010-0951  
秋田山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 中泉松之助  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail:ask@bisucit.ocn.ne.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二十三年年度全国統一防火標語  
消したはず  
決めつけないで  
もう一度

# 巨大津波 東日本太平洋岸を襲う 死者・行方不明者は二万七千人超 三月一日 東日本大震災

平成二三年三月一日(金)午後二時四六分頃、三陸沖を震源とするマグニチュード九・〇の国内史上最大の地震、東日本大震災が発生した。この地震による大津波で東北から茨城にかけての太平洋岸は壊滅的な被害を受けた。また、この地震と津波により、東京電力の福島第一原子力発電所では炉心の一部が溶融し、高いレベルの放射線を放出している。

この東日本大震災は、秋田県内でも秋田市雄和や大仙市など一部の地域で震度五強の強い揺れを観測し、地震直後から県内全域で停電が続き、一部地域では断水が生じた。

秋田県消防協会では会員の皆様から義援金を募り、日本消防協会を通じて岩手、宮城、福島県などの被災地にお届けすることとしている。

亡くなられた方々に心より哀悼の意を表しますとともに被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

## ■東日本大震災の被害状況

三月二八日(月)午前一〇時現在、東日本大震災による死者数は、岩手県三、二二三人、宮城県六、六二七人、福島県九七四人など一二都道県で一八七二人に上り、行方不明者は一万六、二四四人で死者・行方不明者は二万七、一一六人となっている。

また原発事故は、原発周辺の広い範囲から放射線量が検出されるなど、周辺地域の日常生活や経済活動に大きな影響を及ぼしている。

## ■県内での地震発生状況

地震後から二八日午前一〇時までの一七日の間、気象庁が公表している県内や本県沖を震源とした震度一以上の地震は▽内陸北部で二回▽内陸南部で一四回▽本県沖で六回の計二二回発生している。内陸南部の震源地は明治二九年の陸羽地震(死傷者九四一人)、大正一四年の強首地震(同四一人)の震源地周辺に集中しており、本県沖は昭和五八年の

日本海中部地震(同三四八人)と同じ震源域で続発している。

この東日本大震災に誘発されて、県内でも地震や津波が発生するおそれがありますので、今後も地震や津波情報には十分注意して下さい。

## ■「津波でんでんこ」

これまで何度も津波に襲われた三陸地方には、「津波でんでんこ」という言い伝えがある。

津波が来たら親子であつてもでんでんばらばらに高台に避難し、自分の命は自分の責任で守れという教訓で、そうでもしなければ恐ろしい津波から逃げることなど出来ないという、津波から避難することの難しさを示している。

今回の津波は、安心だと思われた避難場所ですえ易々と飲み込んでしまっほどの、想定外の規模であった。「津波でんでんこ」とは言え、津波の来襲を知り堤防の水門を閉鎖しようとうと海へ向かった消防団員、海辺の人を助けようとしていた警察官、防災無線で最後まで住民に避難を呼びかけた町職員など、職務に全霊を傾け犠牲となった方は多い。

犠牲者のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

## 平成二十三年年度 秋田県山火事予防運動

この運動は、山火事が多発する春季において、県民一人一人に山火事予防思想の普及を図り、森林資源と自然環境の保全に努めることを目的に実施するものです。

### ■統一標語

その油断 緑の森を 火の海に

### ■実施期間

平成二十三年四月一日(金)～五月三十一日(火)までの二ヶ月間

### ■重点推進事項

- ① 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと。
- ② たき火の場所を離れるときは完全に消火すること。
- ③ 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと。
- ④ 火入れの際、必ず市町村長の許可を受けること。
- ⑤ たばこの吸いながらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと。
- ⑥ 火遊びはしないこと。



# 消 防 功 勞 者 表 彰

平成22年度秋田県消防功勞者表彰式は、平成23年3月16日秋田市で開催される予定であったが、3月11日東日本大震災が発生したため、急遽中止となり、知事表彰や消防庁長官表彰、日本消防協会長表彰等は、それぞれの市町村から伝達されることとなった。

県の表彰式に先立って3月3日、東京都港区虎ノ門のニッショーホールで開催された平成22年度消防功勞者消防庁長官表彰式には、本県からは次の方が出席された。



大曲仙北広域市町村圏組合消防本部  
 湯沢市消防団  
 大仙市消防団  
 能代市消防団  
 北秋田市消防団  
 由利本荘市消防団  
 仙北市消防団  
 秋田市消防団  
 北秋田市消防団

消防正監	高橋庄孝
団 長	金子 彌 忠
副 団 長	中田 林 憲
副 団 長	北田 口 正
副 団 長	竹下 木 吉
分 団 長	佐々木 勝 秋
分 団 長	高 橋 勝 義

## 消 防 庁 長 官 表 彰

### ◆功 勞 章 (5名)

秋田市消防本部	消防正監	佐藤賢治	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防正監	高橋庄孝
湯沢市消防団	団 長	金子 哲 雄	大仙市消防団	団 長	草 彌 忠
能代市消防団	団 長	中 田 潤			

### ◆永年勤続功勞章 (75名)

男鹿地区消防一部事務組合消防本部	消 防 監	加 賀 邦 正	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	大 村 勲
横手市消防本部	消防司令長	小 野 松 治	能代山本広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	鴨 田 次 郎
湖東地区行政一部事務組合消防本部	消防司令長	菅 原 義 行	湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	高 橋 道 男
鹿角広域行政組合消防本部	消防司令長	奈 良 俊 幸	秋田市消防本部	消防司令長	保 坂 昭 弘
秋田市消防本部	消防司令長	保 坂 喜 久 雄	秋田市消防本部	消防司令長	渡 邊 强 美
にかほ市消防本部	消 防 司 令	阿 曾 時 秀	北秋田市消防本部	消 防 司 令	伊 東 郷 美
五城目町消防本部	消 防 司 令	伊 藤 満 一	鹿角広域行政組合消防本部	消 防 司 令	工 藤 清 一
由利本荘市消防本部	消 防 司 令	熊 谷 源 一	大館市消防本部	消 防 司 令	菅 原 義 正
由利本荘市消防本部	消 防 司 令	高 橋 博 樹	北秋田市消防本部	消 防 司 令	長 岐 順 一
大館市消防本部	消 防 司 令	畠 山 初 美	大館市消防本部	消 防 司 令	花 田 吉 郎
藤里町消防団	団 長	小 山 初 美	大仙市消防団	副 団 長	伊 藤 弘 雄
北秋田市消防団	副 団 長	北 林 榮 美	由利本荘市消防団	副 団 長	齊 藤 貞 隆
由利本荘市消防団	副 団 長	佐々木 勝 美	八峰町消防団	副 団 長	佐々木 隆 洋
由利本荘市消防団	副 団 長	田 口 憲 一	仙北市消防団	副 団 長	竹 下 正 勝
大仙市消防団	分 団 長	明 平 茂 豊	秋田市消防団	分 団 長	井 川 良 洋
北秋田市消防団	分 団 長	永 坂 初 男	羽後町消防団	分 団 長	柿 崎 眞 悦
男鹿市消防団	分 団 長	加 藤 祥 一	男鹿市消防団	分 団 長	鎌 田 満

大館市消防団	分 団 長	北 村 鉄 正	男鹿市消防団	分 団 長	木 元 政 勝
横手市十文字消防団	分 団 長	齋 藤 孝 悦	五城目町消防団	分 団 長	齋 藤 鉄 雄
由利本荘市消防団	分 団 長	齋 藤 安 雄	秋田市消防団	分 団 長	佐々木 春 男
秋田市消防団	分 団 長	佐々木 英 久	秋田市消防団	分 団 長	佐々木 吉 秋
鹿角市消防団	分 団 長	佐 藤 一 榮	秋田市消防団	分 団 長	佐 藤 清 廣
大仙市消防団	分 団 長	佐 藤 孝 次	大仙市消防団	分 団 長	佐 藤 剛 司
大館市消防団	分 団 長	佐 藤 博	横手市横手消防団	分 団 長	佐 藤 養 三
小坂町消防団	分 団 長	澤 口 紀 夫	鹿角市消防団	分 団 長	沢 田 正 春
横手市増田消防団	分 団 長	鈴 木 敏 美	仙北市消防団	分 団 長	相 馬 武 夫
北秋田市消防団	分 団 長	高 橋 勝 義	美郷町消防団	分 団 長	高 橋 忠 美
大仙市消防団	分 団 長	高 橋 光 義	潟上市消防団	分 団 長	田 仲 東
三種町消防団	分 団 長	田 中 勉	大潟村消防団	分 団 長	谷 口 良 一
横手市増田消防団	分 団 長	珍 田 藤 雄	北秋田市消防団	分 団 長	辻 力 夫
横手市大雄消防団	分 団 長	戸 田 重 吉	横手市横手消防団	分 団 長	中川原 信 一
鹿角市消防団	分 団 長	中 村 吉 雄	由利本荘市消防団	分 団 長	那 須 勝 弘
大館市消防団	分 団 長	浪 岡 善 廣	能代市消防団	分 団 長	袴 田 正 彦
能代市消防団	分 団 長	藤 田 久 義	横手市十文字消防団	分 団 長	細 川 祐 一
八郎潟町消防団	分 団 長	渡 部 壽 一	大館市消防団	分 団 長	渡 邊 照 雄
上小阿仁村消防団	副 分 団 長	伊 藤 信 義	湯沢市消防団	副 分 団 長	兼 子 賢 一
東成瀬村消防団	副 分 団 長	佐々木 喜久藏	大仙市消防団	副 分 団 長	佐々木 清 市
横手市増田消防団	副 分 団 長	松 井 大 作			

## 秋 田 県 知 事 表 彰

◆無火災表彰 (4町村) 八 峰 町 井 川 町 大 潟 村 東 成 瀬 村

## 日 本 消 防 協 会 長 表 彰

◆表 彰 旗 (1機関) 横手市雄物川消防団

◆竿 頭 綬 (3機関) 八 峰 町 消 防 団 井 川 町 消 防 団 横 手 市 大 森 消 防 団

◆功 績 章 (19名)

小坂町消防団	副 団 長	木 村 和 男	大館市消防団	副 団 長	齋 藤 勉
北秋田市消防本部	消 防 司 令 長	藤 島 孝 雄	能代市消防団	副 団 長	加 藤 建 一
三種町消防団	分 団 長	佐 藤 好 孝	八郎潟町消防団	団 長	三 戸 留 吉
井川町消防団	団 長	浅 野 周 一	秋田市消防本部	消 防 司 令 長	鎌 田 千 尋
秋田市消防本部	消 防 司 令 長	富 岡 正 毅	由利本荘市消防団	副 団 長	藤 原 鐵 夫
由利本荘市消防団	副 団 長	今 野 文 夫	大仙市消防団	副 団 長	佐 藤 昇 悦
大仙市消防団	副 団 長	佐 藤 弘 一	仙北市消防団	団 長	高 山 藤 守
横手市山内消防団	団 長	高 階 健 太 郎	横手市大森消防団	副 団 長	佐 藤 勝 太 郎
横手市雄物川消防団	副 団 長	深 川 恭 一	羽後町消防団	分 団 長	木 村 勝 太 郎
湯沢市消防団	分 団 長	石 成 爲 治			

◆精 績 章 (44名)

鹿角市消防団	分 団 長	沢 田 正 春	鹿角市消防団	分 団 長	佐 藤 一 榮
小坂町消防団	分 団 長	澤 口 紀 夫	北秋田市消防本部	消 防 司 令 長	伊 東 郷 美
上小阿仁村消防団	団 長	北 林 義 高	大館市消防本部	消 防 司 令 長	三 政 俊 明
北秋田市消防団	副 団 長	金 田 咲 美	大館市消防団	分 団 長	畠 山 久 雄
能代市消防団	分 団 長	藤 田 久 義	能代市消防団	分 団 長	丸 谷 明 雄
三種町消防団	分 団 長	岩 谷 健 作	八峰町消防団	分 団 長	阿 部 富 廣
男鹿市消防団	分 団 長	小 山 田 清 悦	潟上市消防団	分 団 長	菊 地 榮 一
五城目町消防団	副 団 長	石 川 和 雄	秋田市消防本部	消 防 司 令 長	寺 山 香 勲
秋田市消防本部	消 防 司 令 長	森 合 清 通	秋田市消防団	分 団 長	佐 藤 清 一
秋田市消防団	分 団 長	村 越 孝 嗣	秋田市消防団	分 団 長	佐々木 清 一
由利本荘市消防団	分 団 長	那 須 勝 弘	由利本荘市消防団	分 団 長	菊 地 一 郎

由利本荘市消防団	分 団 長 佐々木 定 雄	由利本荘市消防団	分 団 長 池 田 洋
にかほ市消防団	分 団 長 金 子 英 紀	由利本荘市消防本部	消防司令長 伊 藤 敬 一
美郷町消防団	分 団 長 佐々木 徹 男	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消 防 司 令 泉 克 己
大仙市消防団	副 団 長 高 橋 與 志 明	大仙市消防団	副 団 長 三 浦 幸 男
仙北市消防団	副 団 長 佐 藤 生 治	美郷町消防団	分 団 長 中 野 龍 太 郎
横手市消防本部	消防司令長 高 橋 俊 美	横手市消防本部	消防司令長 田 口 信 夫
横手市山内消防団	副 団 長 田 原 一 夫	横手市平鹿消防団	副 団 長 柿 崎 賢 司
横手市大森消防団	分 団 長 佐 藤 忠 久	横手市横手消防団	分 団 長 中川原 信 一
横手市横手消防団	分 団 長 石 田 正	湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消 防 司 令 伊 藤 充
湯沢市消防団	分 団 長 西 成 嘉 一	湯沢市消防団	副 分 団 長 佐々木 長 一
湯沢市消防団	副 分 団 長 奥 山 純 一	湯沢市消防団	副 分 団 長 高 橋 久 一

## 消防庁消防団協力事業所表示証

### ◆消防団協力事業所表示証

株式会社 秋田クボタ	全農物流株式会社 秋田県支店	あきた白神農業協同組合	山一興業 株式会社
ミノル工業 株式会社	株式会社 伊藤組造園	株式会社 ふるさと燃料サービス	JUKI 電子工業 株式会社
株式会社 吉田建設	株式会社 西山製作所 秋田工場	おものがわ農業協同組合	秋田ナイルス 株式会社
合名会社 マルサ建設	秋田ふるさと農業協同組合 十文字総合支店	三又建設 株式会社	株式会社 宮腰デジタルシステムズ
株式会社 秋田新電元	秋田ルビコン 株式会社	矢島小林工業 株式会社	菊地建設 株式会社
山科建設 株式会社	矢島木材乾燥 株式会社	株式会社 菅組	高禮建設 株式会社
進藤建設 株式会社	田中建設 株式会社	石井工業 株式会社	株式会社 丸百組
株式会社 マルコ産業	株式会社 佐藤建設	株式会社 柴田組	



〈写真提供：(財)日本消防協会〉

第一〇回消防団幹部候補中央特別研修が日本消防会館で開催され、本県からは五名の団員が参加したので、その感想を紹介します。

### 第一〇回消防団幹部候補 中央特別研修に参加して



鴻上消防団  
団員 澤井 潤

最後に、この機会に知り合えた全国各地の団員と情報交換等をして、今後の活動に活かしていきたいと思えます。このような研修会に参加させていただきありがとうございました。



鹿角市消防団  
班長 山口 義之

この研修に参加して、これからの消防団のあり方、方向性などを学び、今までの自分の考え方の甘さを痛感しました。また、全国各地の消防団の環境や考え方、現在直面している問題点等を聞き、大変刺激を受けてきました。幸い鹿角市ではこれといった大きな災害なども皆無に等しく、活動等のPRもしていないので、「消防団は、ただ酒を飲むだけの集団だ」と言われても仕方がない状態です。これからは、この研修で得られた情報や知識を活用し、幹部を含めた団員の意識改革をして活動するとともに、地域の人達に私達がどのような活動をしているのか理解を深めていただき、地域に根ざした消防団活動をしたいと考えています。

■男性の部  
平成二三年  
二月八日(火)〜一〇日(木)

この研修に参加し、全国からの研修生と様々な話をする事ができ、貴重な体験をしました。

研修のなかで、班毎テーマを設け討論しましたが、結果、新規分団員の確保が話の中心となっており、どこの都道府県の分団でも新規分団員の確保が一番の問題となっているようでした。

また、阪神・淡路大震災を経験した分団員も研修に参加しており、当時の生々しい体験談を話しており、災害時の多発火災の怖さや、大規模な災害時は常備消防より、地域の分団、地域の防災組織が大変活躍していたとのことでした。改めて地域分団の大切さや、地域の防災組織との連携、そして地域防災力の重要さを実感した研修でありました。



大仙市消防団  
部長 傳農 武和

今回参加させていただいた研修は、非常に有意義なものでした。

消防団員として必要な知識、地域における立場、また心構え等さまざまなことを学べる素晴らしい研修で、時間が過ぎるのを忘れるほど充実しており、瞬く間に過ぎ去った三日間でした。

全国から集まった各県代表の消防団員と交流を深め、各県・各地域毎の特色・違い、また活動内容を聞き

自分達の地域でも取り入れたら良い情報なども得ることができました。

各専門分野の講師による講義。自分の知らない知識・情報を学ぶことができ、この研修に参加した者として他の団員・家族・周囲の人々に機会があつたら是非教えたいと思いをしました。

最後にこの研修で得た知識・かけがえのない仲間との繋がりを大事にしていきながら、今後の消防活動に励んでいきたいと思えます。

■女性の部

平成二三年

二月一四日(月)〜一六日(水)



大館市消防団  
団員 渡部留美子

大館から一人の参加という事で、全国各地から集まる人達と打ち解け三日間の研修を乗り切れるか不安でした。

一日目のグループ分け後の懇親会で九州地区と長野の方と仲良くなり、その後の日程は楽しく過ごすことができました。結成三年というところから二十年というところまで様々でしたが、みんな志が高くパワーがある人達ばかりで、すごく刺激を受けました。

講師の方の言葉に、「消防団活動に正解はない」という言葉がありました。どうしても自分達の活動が正

しいのか答えを求めてしまいましたが、自分達が出来ることを地域に合った形で活動していくことが大切だと実感しました。全国に仲間がいることを励みに今後の活動も頑張ろうと改めて思いました。



仙北市消防団  
団員 西宮 三春

二月一四日から三日間行われた研修で、全国の女性消防団員九一名が参加し、七名の方の講話を聞き、知識や考え方を学び、団員として視野が広がりました。特に在日米海軍司令部地域統合消防隊の長谷川祐子さんの講話は今すぐ役立つ内容で本当に勉強になりました。

そして四つのグループに分かれての討議で、「女性消防団員の役割について」意見交換をしました。それぞれ境遇も活動も違い、明確な役割を見つけるのは難しかったです。ただ、全員のもっと地域に貢献したい思いを強く感じました。

今は男女の差より個々の差になりつつある中で、やはり女性特有のソフトさや細やかな気配りを活かし、消防団と地域のパイプ役になる事が私達の役割ではないかと思えます。

今回学んだ事を団員に伝え、今後の活動に活かし、出来る事から一つずつ取り組んでいこうと思えます。

森田ポンプ  
桜ホース・ソフト吸管  
各種消火器

ラビットポンプ  
消防被服一式  
消防機器一式

---

株式会社 協立  
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3  
TEL (0185) (52) 6361  
(52) 6494

地域の防災、災害対策に貢献!

**消 防**

ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

**設 備**

火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

**猿田興業株式会社**

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)  
猿田興業ビル7F FAX 018 (824) 3651

## 見舞金等の基準

### ①罹災見舞金

損 害 程 度	損 害 額	見舞金
住家の全焼又は全壊		10万円
住家の半焼又は半壊	200万円以上	6万円
	100~200万円	4万円
	100万円未満	2万円
非住家の焼失又は損壊 家財の焼失又は損壊	200万円以上	3万円
	100~200万円	2万円
	100万円未満	1万円

### ②弔慰・傷痍見舞金

			見舞金
会員	職務のため	死亡	2万円
		傷痍を受けて重度障害	2万円
		傷痍を受け1ヶ月以上休養	1万円
	在職中死亡	1万円	
会員	災害防止のため死亡		2万円
会員以外	災害防止のため傷痍を受け重度障害		2万円
	災害防止のため傷痍を受け長期医療		1万円

### ③結婚祝い金

結婚祝い金	1万円
-------	-----

四月一日より  
**新互助会事業がスタート**  
秋田県消防協会

秋田県消防協会が行っている互助会事業が新年度から変わります。これまで行っていた「罹災互助会事業」に変わって、これまでの制度内容をより一層充実させた「消防互助会事業」が四月一日よりスタートしますのでご紹介します。

■新互助会事業の名称  
秋田県消防協会消防互助会事業

### ■掛 金

これまでの「罹災互助会事業」と同額の一人年額三〇〇円

### ■事業の種類

- ①罹災見舞金  
会員が火災、地震等の災害により被害を受けたとき贈呈
- ②弔慰・傷痍見舞金(新規)  
会員等が死亡したとき又は職務のため傷痍を受けたとき贈呈
- ③結婚祝い金(新規)  
会員が結婚したとき贈呈

あなたの想いで、守れる街がある。  
あなたの想いで、救える命がある。  
あなたの想いで、深まる絆がある。

消防団ホームページもご覧ください。[消防団] [総務]

# 消防団員募集

消防団員募集の手続き等については、各市町村等で定められていますので、居住地(あるいは勤務地)の市役所・町村役場、または最寄りの消防署にお問い合わせください。

お問い合わせ先・電話番号

制作 財団法人 消防科学総合センター 監修 総務省消防庁 消防団協力事業所表示制度

宝くじの収益金は、身近な街づくりに役立っています。

## 消防団員大募集

応募お待ちしております!

消防団は、地域防災の中核的な存在で、地域の安全・安心を確保していく上で大変重要な組織です。

しかしながら、例年、三月から四月にかけて消防団員の退団が多く、消防団員数は年々減少しており、地域の

消防防災力の低下が懸念されています。

多くの方に消防団活動への理解を深めていただき、一人でも多くの方が消防団に入団されますことを期待しています。

なお、応募の条件等につきましては、市町村の消防担当課か消防本部へお問い合わせ下さい。

- 勤労者の皆様の入団
- 女性の方の入団
- 元消防団員の再入団
- 大学生・専門学校生の入団

防災対策シリーズ⑦

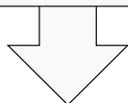
津波対策

津波が発生したら高台に向かって逃げる。これが鉄則。

津波は地震発生後、あっという間にやってくる場合があります。

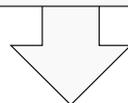
海岸にいるとき、強い地震や長い時間の揺れを感じたら、津波警報の有無にかかわらず、一刻も早くその場を離れて、高台などの安全な場所に避難しましょう。

- 強い地震や長い時間の揺れを感じたら
- 津波警報が発表されたら(揺れを感じない場合も)



- 海岸にいる人は、直ちに海岸から離れ、すばやく高台か高いビル、あるいは指定の避難場所に逃げましょう。
- 津波危険地区の住民は、直ちに避難しましょう。

- 津波注意報が発表されたら(揺れを感じない場合も)



- 海水浴や磯釣りは危険なので、直ちに中止し、安全な場所に移動しましょう。
- 津波危険地区の住民は、いつでも避難できるように準備しましょう。

津波避難所のマーク

津波注意

地震により津波が襲う危険のある地域であることを示します。



津波避難所

津波に対して、安全な避難場所・高台であることを示します。



津波避難ビル

津波に対して安全な避難ビルであることを示します。



津波のここに注意！

- ★津波は水深の深いところではスピードが速く、ジェット機(時速800km)ほどのスピードです。沿岸部でも、短距離選手なみのスピードです。
- ★水深の浅い近海に達すると、スピードは遅くなり、高さが高くなります。
- ★地形によって、津波の高さは想像以上です。陸上に駆け上がった津波には、高さが50cm程度でも、人が立っていられなくなるほどの強い力があります。

- ★津波は、繰り返し襲ってきます。警報、注意報が解除されるまで、海岸には近づかないようにしましょう。
- ★津波の前触れとして、必ず引き潮があるとは限りません。押し波でくることもあります。



【奥尻島の津波被害が語るもの】

平成5年の北海道南西沖地震では、揺れの直後に、最大20mを超える大津波が発生しました。

この大津波は、震源地に近かった奥尻島を急襲し、島の南端の青苗地区に壊滅的な打撃を与えました。

「逃げ始めたら、もう津波が襲ってきた」との証

言もあるように、地震発生から津波が襲うまで、わずか5分だったと言われています。

「津波は一気に襲ってくる。何はともあれ高台に逃げろ！」－貴重な教訓を語りかけています。



秋田市消防団では、毎年二・三月に研修会が開催されます。現在は五地区(北部・中央・南部・河辺・雄和)に分かれ、消防団に関わること

秋田市消防団河辺地区研究会  
 〓 秋田市消防団 〓

支部情報アラカルト



羽後町消防団  
 団長 佐藤 金一  
さとう きんいち  
 (平成三十三年三月一日)

新消防団長紹介

はもちろん、メンタルヘルス分野、歴史分野等、幅広い分野でそれぞれ研修を行っています。  
 三月六日に河辺地区研修会が、河辺三内の「ユフォーレ」で開催されました。研修会では「消防団員の公務災害補償について」をテーマに、秋田市消防本部総務課職員が講師を務めました。  
 研修内容は、公務災害補償制度の意義・基本的な考え方から、損害補償の種類、解説がありました。また、団員がとても興味のある「退職報償金」について若干説明をしたところで時間となりました。  
 日ごろから「体力」に主眼を置いた訓練を得意としている団員にとつ



	平成 23 年		平成 22 年			同期比較	
	3 月	累計	3 月	累計	年計	3 月	累計
建 物	21	58	27	69	227	- 6	- 11
林 野	0	0	0	0	14	0	0
車 輛	2	5	0	3	26	2	2
そ の 他	6	8	6	10	53	0	- 2
合 計	29	71	33	82	320	- 4	- 11
死 者 数	4	15	2	9	20	2	6
負 傷 者 数	3	16	5	9	54	- 2	7

火災の発生状況  
 〓 速報値 〓  
 (秋田県総合防災課調べ)

〔情報提供〓秋田市支部〕  
 研修会が終わった後はもちろん「意見交換会」です。こちらを得意としている団員が、気のせいが多かったようでしたが、地域の安全・安心を守るために熱い意見が交わされました。  
 〔情報提供〓秋田市支部〕  
 て、約一時間の座学は少々辛かったようですが、六〇名の団員は真剣な眼差しで受講していました。

トーハツ消防ポンプ  
 モリタ自動車ポンプ  
 消防被服全般  
 秋 田 県 代 理 店

総合防災設備センター

## 株式会社 高 義 商 会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消 火 器 各 種

〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 ⅴ(0183)(42)2125  
 〒012-0844 湯 沢 市 田 町 ⅴ(0183)(73)2588

## 株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号  
 TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>  
 E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)